

はじめに

二〇〇五年冬。

私は、中外製薬株式会社から発行されている

薬剤師向けの機関誌『Farma Chugai』に、一年間、

薬剤師としての思いを綴るような内容でと、原稿の依頼を受けました。

一年で四回分。一年間か…。春、夏、秋、冬。

春は曙…。そんな言葉がふと頭に浮かんできました。

四季を入れ込んで…。

枕草子を最初に持ってきて、原稿を書いてみよう。

そんな思いつきで四回分の原稿を書き終えました。

ところが一年で終える予定だった原稿ですが、
思いもかけず、続けて書かせていただけることになりました。

さあ大変！ なにせ私は、枕草子は、この段しか知らなかったのです。
どうする…連載。

書店に行き、タイトルに枕草子とある書籍をすべて購入し…。

にわか文学おばさんに変身した私は、

すっかり清少納言という人に、夢中になってしまいました。

大胆不敵にも、

私は、自分が遭遇する様々な事象を彼女だったら…なんて、
と、考えながら、気分はすっかり清少納言。

彼女の、聡明で鋭い観察眼には、及ぶべくもありませんが、

薬剤師としての思いを季刊誌に

「薬剤師のまなざし」というタイトルで綴ってきました。

そして、その七年間にわたる連載を一冊の本にまとめたのが本書です。

本書を手にとってくださった方には、

枕草子に記された、

いつの時代にも変わることのない人間の本质や、

清少納言の魅力にふれながら、

一人の薬剤師の思いを知っていただけたら幸いです。

はじめに

二〇一三年八月

堀 美智子

目次

はじめに

1. 夜明けと睡眠薬／春は、曙… 11
2. 蛍のような光でも／夏は、夜… 23
3. 輝きのとき／秋は、夕暮れ… 33
4. 狐の手袋／冬は、つとめて… 43
5. 天使と悪魔／うつくしきもの… 55
6. イチゴシロップ／あてなるもの… 67

7. 嫁と姑／ありがたきもの… 79
8. 安全第一／胸つぶるもの… 89
9. 知識があっても／病は胸… 103
10. 咳いろいろ／人ばへするもの… 115
11. 一瞬の出来事だけど／人にあなづらるもの… 127
12. お金より地位より／よろづのことよりも… 139
13. 憎らしき男／生い先なく… 153
14. 命との距離／近うて遠きもの… 165

- | | | | |
|----------|-----|-----------------------|-----|
| | 15. | 矢車草と秋桜と／草の花は… | 177 |
| | 16. | 琵琶湖のほとりで／過ぎにしかた恋しきもの… | 189 |
| | 17. | 言葉も常識も／ふと心劣りとかするものは… | 201 |
| | 18. | 刺繍の裏／むつかしげなるもの… | 213 |
| | 19. | 薬あるところに／にげなきもの… | 225 |
| | 20. | 遣伝子と個性／絵に描き劣りするもの… | 237 |
| | 21. | 移りゆく季節の中で／ただ過ぎに過ぐるもの… | 249 |
| | 22. | 桔梗の蕾／九月ばかり… | 261 |
| | 23. | あうんの呼吸／雪のいと高う降りたるを… | 273 |
| | 24. | 赤い粒。白い粒／くちをしきもの… | 283 |
| | 25. | 愛を添えて／上にさぶらふ御猫は… | 293 |
| | 26. | やはり顔／説経の講師は… | 303 |
| | 27. | 穴があつたら／かたはらいたきもの… | 313 |
| | 28. | 使命／うれしきもの… | 327 |
| 母林カネヨの俳句 | | | 338 |
| おわりに | | | 344 |